

留学を終えて

札幌校 教育学研究科教科教育専攻

保健体育専修2年 秋月 茜

留学先：大韓民国 釜山大学校

今回私は、韓国は釜山広域市にある釜山大学校に留学しました。前回学部生時代に行ったソウル特別市の東国大学校とは違った環境で勉強をすることが出来たと思います。今回の釜山での目的は、交換留学という制度を利用しての修士論文の資料収集が主でしたので、前回よりさらに気合いを入れて望んだ留学であったと思います。

語学に関しては、前回の韓国留学の際には韓国語が全く出来なかったため、最初から最後まで語学の習得に時間を費やしました。その結果、中級クラスまで修了することが出来たため、釜山では日常会話のような簡単な語学の面で特に困難なことはなかったように思えます。しかし、今回は前回のような語学を学びにきた学部生という立場ではなく、大学院生として研究の資料収集目的の渡韓であったため、教授など目上の方とお話しする機会が大変多く、韓国語の上級を修了していない私にとって敬語を使用しながらの会話は難しかったです。かなりたどたどしい敬語を使いながら韓国語を話す私に釜山大の先生をはじめ、他大学の先生も熱心にご指導いただいたことには大いに感謝しています。

授業や修士論文の資料収集では、釜山大の学部生や大学院生たちの助けもあり、充実した内容であったという印象があります。授業は単位取得よりは自分が興味のある授業を受講させてもらうという形をとったため、主に学部生の授業を受講していました。その他、大学院の授業や大学院生のみで行う勉強会にも参加しました。初めは釜山訛りや話すスピード、専門用語を理解することが難しかったのですが、一ヶ月ほど受講していると徐々にその環境にもなれ、新しい知識に触れることができ、大変勉強になったと感じています。修士論文の資料収集のために釜山大付近の小学校に訪問した際には、その小学校の体育の先生をはじめ、校長先生や副校長先生までもが協力してくださり、韓国の方の情の厚さには感銘を受けました。学部生や大学院生の補助もあり、特に問題もなくスムーズに測定を行えられたので、修士論文をしっかりと書き上げようと強く思いました。

生活等では釜山大の方で BUDDY を組んでくれたのですが、私の BUDDY は学部が隣で、毎日同じ建物内で会うことが出来、日本語も堪能な学生でした。そのため、本当に困った時は頼りがいがあり、初めは友達も少なく寂しく過ごすだろうと思っていたのですが、彼女のおかげで楽しく留学生生活を始められ、終えられたように思います。私は釜山大の寮で

生活していましたが、中国人留学生と同室でした。生活スタイルや文化の違いで難しいところもありましたが、とても優しい良い子で学校が休みの日には二人で出かけることもありました。寮には日本人も多く、他学部ではありましたが日本人の友達も出来ました。学部の授業等や BUDDY の紹介などで韓国人の友達も増え、韓国語を話す機会も多くなり、様々な面で充実した毎日を送ることができたと改めて感じました。

今回の留学では、自分の韓国語がどこまで通用するのかを試すことができ、さらに語学力向上の必要性を感じる事が出来たと思います。また、勉強の面でも今回出来なかったことなどを通して新たな目標もみえたので、今後はその目標に向かって努力していきたいと思っています。

留学を考えている学部生や大学院生の皆さんには計画性を持って、留学に望んでほしいと思います。私自身、一度目の韓国留学の際には「留学に行けば何か見つかるだろう」という思いで韓国へ行きましたが、結局語学を中途半端に習得して帰っただけでした。しかし、今回は明確な目標のもと韓国へ行き、勉強したり、資料収集したりすることで充実感や新たな目標の発見などさまざまなものを得られたと思います。せっかく留学という経験ができる環境にいるのであれば、留学前にしっかりと目標を定め、留学に行く方がただ何となく行くより何倍も自分の為になると思います。また、その外国へ行ったらその国の言葉だけではなく、食事のマナーや祭事をはじめとした文化も学び、做すべきだと思います。「郷に行っては郷に従え」その国の人を尊重する意味を込めて、行動を行うことでも国際理解を深められると思います。今後、より多くの方が国際理解に興味を持ち、留学を通して多くのことを学んで欲しいと思います。



↑BUDDY とタルマジキル (月見の道) の桜 (右: 本人)



↑釜山を本拠地とするロッテ・ジャイアンツの試合にて
ファンたちの独特な応援 (ゴミ袋を頭に被る!)



↑釜山大学校正門



↑散歩がてら勉強しに新羅大学校へ